

## サシバと里山の生きものを守る谷津田ビオトーププロジェクト

NPO 法人 オオタカ保護基金

栃木県

---

### 1 活動の目的

栃木県東部の市貝町には、谷津田が点在する豊かな里山が広がっており、絶滅危惧Ⅱ類のサシバが数多く繁殖しています。その繁殖密度は日本一と言われており、日本におけるサシバの重要な生息地です。しかし近年、農家の減少や高齢化等によって、谷津田が放棄され、この地域のサシバの生息状況や生物多様性が悪化しています。そこで、オオタカ保護基金では、1 か所で放棄された谷津田を復元する活動を始めましたが（谷津田ビオトープ 1 号地）、地域のサシバや生物多様性を維持するためには、この活動を地域全体に広げて行く必要があります。そこで今回、放棄された谷津田を新たに復元し、谷津田ビオトープとして保全管理するとともに、地域および町外の人を対象に自然観察会を開催します。

## 2 サシバとは

活動報告の前に、サシバについて説明します。

### (1) サシバの生態

#### 形態

頭から尾の先までの長さは約 50 cm、翼を広げた長さは約 110 cmで、カラスより少し小さいタカです。

体の上面や翼の上面は赤身のある褐色をしており、顔は灰色で目は金色。喉には太い縦斑が 1 本あり、胸は褐色で腹には褐色の横斑があります (写真 1)。

雌は雄に比べて少し大きく、体の上面の赤味や顔の灰色味が薄く、白い眉斑が目立ちます (写真 2)。



写真 1: サシバ オス



写真 2: サシバ メス

## 分布

サシバは、渡り鳥です。アムール地方南部、ウスリー地方、中国北東部、朝鮮北部、日本などで繁殖し、秋になると南西諸島、インドシナ、マレー半島、フィリピンなどで渡って越冬します。

日本では、東北地方から九州地方の低地の農村地帯から山地の森林地帯で繁殖をします。南西諸島の一部では越冬するものもいます。

## 生息環境

日本での繁殖期のサシバの生息環境の多くは、丘陵地に細長い水田（谷津田）が入り込んだ里山環境です（写真 3）。地域によっては、樹林の点在する農耕地や草地、山地の森林地帯にも生息します。



写真 3：サシバが好む生息環境（繁殖期）

## 繁殖期の生活

市貝町周辺には、サシバは3月下旬から4月上旬に渡来します。渡来するとすぐに求愛・造巣をはじめ、早いものでは4月中旬に、遅くとも5月上旬には産卵して抱卵に入ります。

巣はアカマツやスギなど針葉樹にかけることが多いですが、広葉樹にかけることもあります。抱卵期間は約1か月で、ヒナ数は2~3羽。ふ化後、36日前後で巣立ちます。

繁殖期の親鳥の主な行動範囲は、巣から半径500m程度です。繁殖が終わると、巣立った幼鳥は7月から8月に、親鳥は9月から10月にこの地を離れます。

市貝町周辺のサシバの主な食物は、田畑や草地、森林に生息するカエル類、ヘビ類、トカゲ類、モグラ類、昆虫類です。サシバは、見晴らしのよい場所に止まって獲物をさがし、地上や樹上に飛び降りて、それらを捕まえます。サシバが里山生態系の指標種と言われるのは、サシバが食物連鎖を通じて里山に生息する様々な生きものと生態系ネットワークでつながっているためです(図1)。

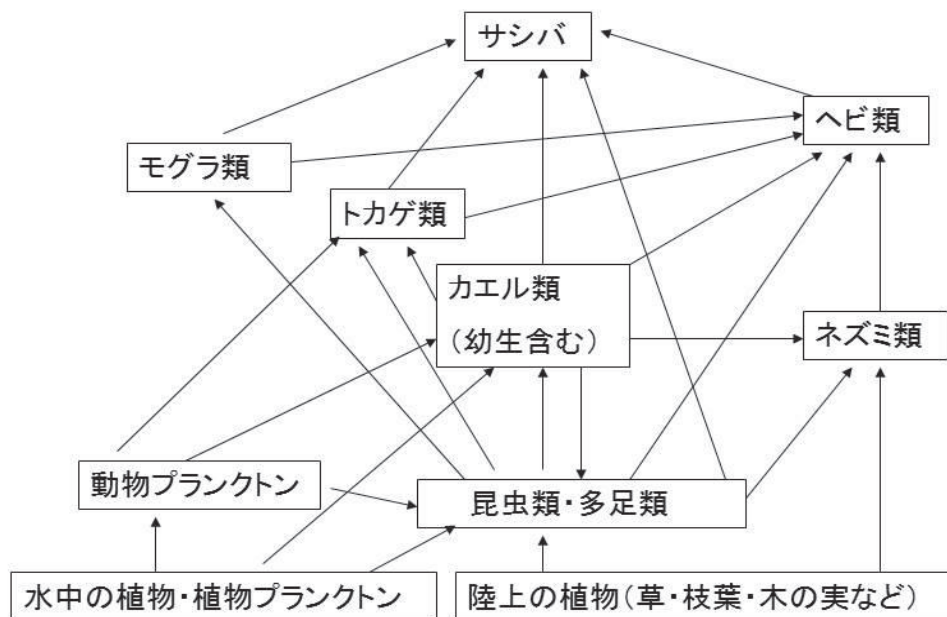


図1: サシバを取り巻く生態系ネットワーク

## 市貝町周辺での生息状況

オオタカ保護基金では、2002年以降毎年市貝町周辺でサシバの繁殖状況を調べています。その結果、4km×4kmの範囲で平均22つがい（138つがい/100平方キロメートル）という高い密度で生息していることがわかってきました。

この地域には、丘陵地の中にまるで毛細血管のように細長い水田（谷津田）が張り巡らされています。この谷津田は、森林に接する部分が多く、餌となる小動物が多いことから、サシバにとって絶好の生息地になっているのです。

## サシバに迫る危機

市貝町周辺では数多く生息するサシバですが、全国的にみると急激に減少しています。

渡りの主要な中継地である沖縄県宮古島では、1970年代から毎年、宮古野鳥の会によって秋にこの島を通過していくサシバの個体数がカウントされています。それによると、1970年代～1980年代前半までは毎年3万羽前後、多い年には5万羽を超えるサシバが観察されていました。しかしその後は減少し1990年代以降になると観察個体数が2万羽前後まで減少してしまいました（宮古島観光協会HPによる）。

このように、ここ30年ほどの間に、サシバの生息数が激減してしまったことから、2006年には国のレッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」に指定されました。サシバが減少した理由としては、都市開発などによる生息地の消失、圃場整備による餌動物の減少、耕作放棄による狩り場の減少などが指摘されています。

### 3 活動報告

#### (1) 放棄された谷津田の復元

当初 1 か所 0.4 ヘクタールの放棄された谷津田を復元する予定でしたが、地元の営農組合さんのご協力で、2 か所、合計 0.8 ヘクタールの放棄された水田を復元することができました(谷津田ビオトープ 2 号地および谷津田ビオトープ 3 号地)。各谷津田ビオトープの復元状況は以下の通りです。

#### 谷津田ビオトープ 2 号地 (続谷地区)

面積：約 0.4 ヘクタール

2014 年 6 月に復元整備を行いました(写真 4、5)。水張りビオトープとして管理する他、一部では直播による飼料米栽培も行いました(写真 6)。2015 年も同様の管理を実施中です。なお、2014 年には近傍でサシバが繁殖し、ビオトープが狩り場として利用されていることが確認されました。



写真 4：谷津田ビオトープ  
2 号地復元前  
(2014 年 1 月)



写真 5：谷津田ビオトープ  
2 号地復元後  
(2014 年 7 月)



写真 6 : 谷津田ビオトープ 2 号地内の  
水張り部分  
(2015 年 6 月)

### 谷津田ビオトープ3号地（市塙地区）

面積：約0.4ヘクタール

2015年4月に復元整備を行いました（写真7、8）。水張りビオトープとして管理を実施中です。ここでも近傍でサシバが繁殖しており、ビオトープ上空を飛んだり、狩り場として利用していることが確認されました（写真9、10）。



写真7：谷津田ビオトープ  
3号地復元前  
（2014年9月）



写真8：谷津田ビオトープ  
3号地復元後  
（2015年5月）





写真 9 : 谷津田ビオトープ 3 号地の上空を飛ぶサシバ (2015 年 4 月)



写真 10 : 谷津田ビオトープ 3 号地で餌をとったサシバ (2015 年 4 月)

## (2) 谷津田ビオトープ 2 号地の環境管理

復元したビオトープについて、生きものが生息・生育しやすい環境、サシバが狩りをしやすい環境を維持するために、定期的に草刈りなど環境管理作業を行いました。当初 1 か所 0.4 ヘクタールの放棄された谷津田を復元する予定でしたが、上述した通り、2 か所 0.8 ヘクタールの放棄された水田を復元することができたため、それぞれ 4 と 5 回、合計 9 回の環境管理作業を行いました。地域ごとに環境管理作業の経過は以下の通りです。

### 谷津田ビオトープ 2 号地 (続谷地区)

以下の 4 回、環境管理作業を実施しました。

2014 年 6 月 29 日 土手の草刈り (写真 11)

2014 年 7 月 11 日 土手の草刈り

2014 年 8 月 1 日 土手の草刈り

2014 年 9 月 15 日 土手の草刈り



写真 11: 谷津田ビオトープ 2 号地での  
草刈り作業  
(2014 年 6 月)

### 谷津田ビオトープ 3号地 (市塙地区)

以下の 5 回環境管理作業を行いました。

2015 年 4 月 12 日 水路の整備 (写真 12)

2015 年 4 月 25 日 水路の整備、土手の草刈り (写真 13)

2015 年 5 月 2 日 水路の整備、土手の草刈り、水路や山道脇の枝払い

2015 年 5 月 19 日 水路の整備、土手の草刈り、水路や山道脇の枝払い

2015 年 5 月 23 日 水路の整備、土手の草刈り、水路や山道脇の枝払い



写真 12: 谷津田ビオトープ  
3号地水路の整備  
(2015 年 4 月)



写真 13: 谷津田ビオトープ  
3号地土手周辺の草刈り  
(2015 年 4 月)

### (3) 谷津田ビオトープ 2号地および周辺での自然観察会の開催

復元した谷津田ビオトープ 2号地および周辺で、2014年8月3日と2015年4月19日の2回、自然観察会を開催しました。自然観察会の概要は以下の通りです。

#### 2014年8月3日「谷津田の生きもの観察会」

参加者：おもに地域の小学生と大人 15名

谷津田ビオトープ 2号地に集合。網などを使って、水路や田んぼで生きものを探しました。その結果、以下のものを確認しました(写真 14、15、16)。残念ながら、サシバは観察できませんでした。

魚類：カワムツ、タモロコ、ホトケドジョウ、ドジョウ

昆虫：オニヤンマ、シオカラトンボ、ナツアカネ、アキアカネ、タガメ、コオイムシ、ガムシ、クロゲンゴロウ、マルガタゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コシマゲンゴロウ、ミズカマキリ、マツモムシ

貝類：マシジミ、カワニナ

甲殻類：サワガニ



写真 14：網で田んぼの生きものを捕まえる参加者

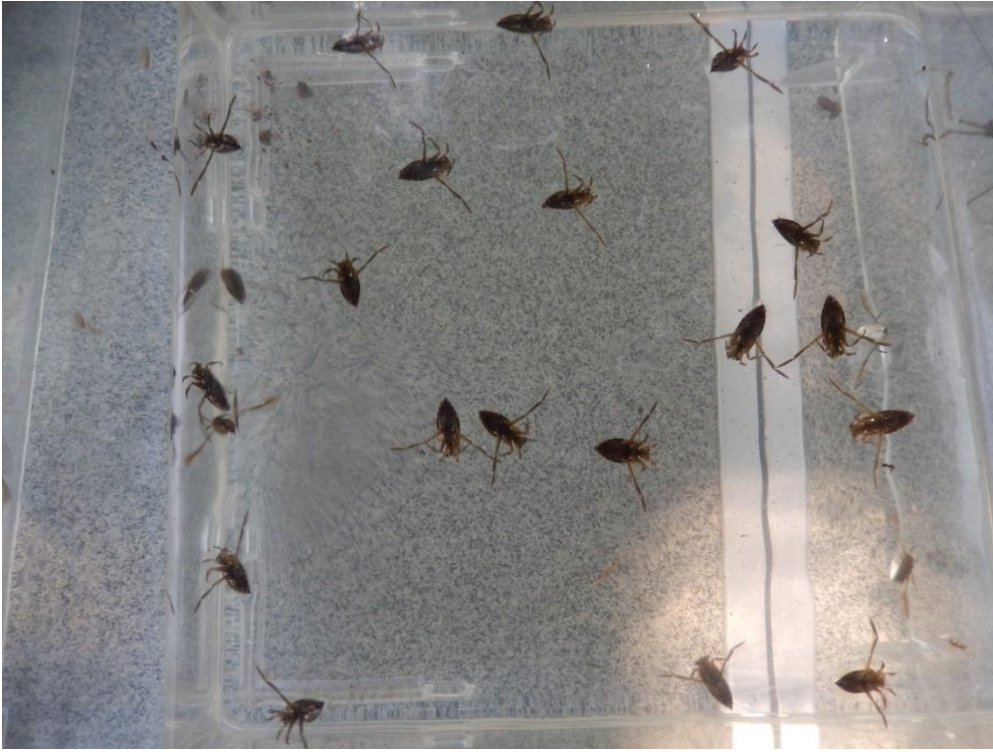


写真 15 : 観察された水生昆虫 (マツモムシ)



写真 16 : 観察された水生昆虫 (ミズカマキリ)

## 2015年4月19日「サシバと里山の生きもの観察会」

参加者：おもに町外からの大人と子ども 23名

道の駅「サシバの里いちかい」に集合後、マイクロバスにて続谷地内に移動。しばらくサシバを待ちましたが。トビやノビタキ、ニホンアカガエルの卵塊やニホンアマガエル成体、ホトケドジョウやドジョウは観察できましたが、サシバは出現せず。そのため、マイクロバスで別の場所に移動。そこで、サシバが電柱から飛び立って餌をとる様子などを観察しました（写真17）。最後に、谷津田ビオトープ2号地に移動し、ニホンアカガエルの卵塊、ニホンアマガエル、ホトケドジョウ、オニヤンマのヤゴ、サナエトンボ類のヤゴ、イトトンボ類のヤゴ、アメリカザリガニを観察しました（写真18）。



写真17：サシバの雌雄の  
区別の説明を聞く参加者  
(2015年4月)



写真18：里山の生きものの  
説明を聞く参加者  
(2015年4月)

## 4 おわりに

栃木県市貝町にサシバが高密度で生息するのは、この地域に丘陵地に食い込むような谷津田（山間の谷に沿った細長い田んぼ）が多数あるからです。谷津田は林に接する部分が多く、餌動物も多いことから、サシバにとって絶好の繁殖地になっているのです。自然豊かな里山は、農業によってつくられ、維持されてきました。しかし最近では、市貝町でも耕作放棄や農地整備などによって生きものの多様性が低下し、サシバの生息状況も悪化しつつあります。サシバや里山を保全するためには、生きものにも配慮しながら、農業をはじめとした地域経済を盛りあげて行くことが必要です。

そこで、2010年から市貝町において、オオタカ保護基金と町の協働によるサシバをシンボルにしたまちづくりが始まりました。2014年3月には、そのロードマップとなる「市貝町サシバの里づくり基本構想」が策定され、4月にはその拠点となる道の駅「サシバの里いちかい」がオープンしました。さらに9月には、それを推進する民間組織である「サシバの里協議会」も本格始動しました。また、今回のタカラ・ハーモニストファンドによって、谷津田ビオトープも3か所に増えました。

しかし、道の駅の地元産農産物の品揃えはまだ十分とは言えませんし、推進母体の組織づくりも始まったばかりです。谷津田ビオトープも、3か所では不十分です。

今後、道の駅を拠点に「体験⇔販売⇔保全」の好循環をさらに加速させ、人とサシバが共に暮らせる豊かな環境や誇れる地域を未来に伝えるために、オオタカ保護基金は、地域や行政の皆さんと一緒に「サシバの里づくり」を進めて行きます。